

第 21 回 日本生命倫理学会年次大会 プログラム

第 1 日目 11 月 14 日 (土)

A 会場 (大講堂 5201)

9:30 - 9:35 開会挨拶 大会長：大林 雅之

9:40 - 11:10 公募シンポジウム A

- SA ヨーロッパにおける ELDs (終末期の意思決定) の調査から見えてくる「死」
オーガナイザー： 盛永 審一郎 (富山大学)
- SA-1 Policy statements and practice guidelines for end-of-life decision making
Agnes van der Heide (Erasmus 大学)
- SA-2 オランダと欧州 6 カ国における終末期医療の現状について (質問)
石川 悦久 (城西国際大学)
- SA-3 幫助による死がオランダにおいてもたらしているものについて (質問)
飯田 亘之 (千葉大学名誉教授)
- SA-4 オランダにおける安楽死の法的運用
甲斐 克則 (早稲田大学)

11:20 - 12:50 大会企画シンポジウム I

- D1 市民運動としてのバイオエシックスと死生学
オーガナイザー： 渡辺 和子 (東洋英和女学院大学)
- D1-1 市民運動としてのバイオエシックス
加藤 尚武 (京都大学)
- D1-2 緩和医療現場から発信する市民運動
奥野 滋子 (神奈川県立がんセンター)
- D1-3 死生学の市民運動的側面
島菌 進 (東京大学)

13:50 - 14:20 基調講演 (大会長講演) (B 会場で同時中継) 【一般公開】

- L1 バイオエシックスの「運動」と課題
大林 雅之 (東洋英和女学院大学)

司会：河原 直人 (早稲田大学)

14:20 - 15:20 特別講演 (B 会場で同時中継) 【一般公開】

- L2 患者の権利運動とバイオエシックス～弁護士 33 年を振り返って
鈴木 利廣 (明治大学)

司会：大林 雅之 (東洋英和女学院大学)

15:30 - 17:30 大会企画シンポジウム II (B 会場で同時中継) 【一般公開】

- D2 日本におけるバイオエシカルな思想 — 「バイオエシックス」前史から未来へ
オーガナイザー： 安藤 泰至 (鳥取大学)、香川 知晶 (山梨大学)
- D2-1 上原専禄の医療・宗教批判の現代的意義 — 私たちが生と死を取り戻すために—
安藤 泰至 (鳥取大学)

- D2-2 「私という真実」を生きる —田中美津の「とり乱し」論—
協坂 真弥 (東京理科大学)
- D2-3 中川米造における医学・医療への倫理的まなざしの語り
佐藤 純一 (高知大学)
- D2-4 岡村昭彦 —ホスピスへの基点—
高草木 光一 (慶應義塾大学)

B会場 (中講堂 5101)

9:40 - 11:10 公募シンポジウムB

- SB 自死と宗教 —教義と理念、そして実践へ—
オーガナイザー: 藤丸 智雄 (浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター)
司会: 本山 一博 (玉光神社)
- SB-1 自死という問題とキリスト教
土井 健司 (日本キリスト教協議会)
- SB-2 「出直し」に生きる
堀内 みどり (天理教おやさと研究所)
- SB-3 実践へと開く仏教教義 —自死問題から—
藤丸 智雄 (浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター)

11:20 - 12:50 公募シンポジウムC

- SC 女性身体をめぐる解釈の位相 —世論・運動・当事者性—
オーガナイザー: 伊佐 智子 (久留米大学)
- SC-1 リプロダクティブ・フリーダムの視点から
林 千章 (城西国際大学)
- SC-2 生殖技術における“当事者”とは —不妊女性として考え続けてきたこと—
鈴木 良子 (フリー編集者 / 「フィンレージの会」)
- SC-3 マス・メディアにおける身体観の構築過程
柳原 良江 (東京大学)
- SC-4 シティズンシップに基づく公共圏の創造 —REBORNの活動を事例に—
白井 千晶 (早稲田大学)

C会場 (中講堂 5102)

9:40 - 11:10 一般演題1 (口演) 臨床研究と倫理委員会

- 9:40-9:45 座長挨拶: 松井 健志 (東京大学)
- 9:45-10:05 O1-1 臨床試験におけるプラセボ対照群の正当性に関する倫理的検討
大垣 拓郎、藤野 昭宏 (産業医科大学)
- 10:05-10:25 O1-2 偶発的所見への対処義務の基礎付け問題とその含意
林 芳紀 (東京大学)
- 10:25-10:45 O1-3 人を対象とした研究の倫理審査と同意取得に関する調査と「研究倫理支援室」の立ち上げについて —東京大学医科学研究所の経験より—
神里 彩子、武藤 香織 (東京大学)
- 10:45-11:05 O1-4 フランス生命倫理法改正における市民参加の諸相
小門 穂 (東京財団生命倫理の土台づくり研究メンバー・お茶の水女子大学)
- 11:05-11:10 座長総括

11:20 - 12:50 一般演題 2 (口演) 脳神経科学・エンハンスメント

- 11:20-11:25 座長挨拶： 青木 清 (人間総合科学大学大学院)
- 11:25-11:45 O2-1 フランス生命倫理法の見直しと脳神経倫理
本田 まり (芝浦工業大学)、滝澤 正 (上智大学)
青木 清 (人間総合科学大学大学院)
- 11:45-12:05 O2-2 意識障害患者における痛み刺激実験の倫理的正当化
—痛みを画像化するという意味—
戸田 聡一郎 (山梨大学大学院)
- 12:05-12:25 O2-3 エンハンスメントと医療化に関する生命倫理的考察
伊吹 友秀、児玉 聡 (東京大学)
- 12:25-12:45 O2-4 BMI の開発と実用化をめぐる脳神経倫理問題の現状
山口 真由、水島 希、磯部 太一、佐倉 統 (東京大学)
- 12:45-12:50 座長総括

D会場 (中講堂 5204)

9:40 - 11:10 一般演題 3 (口演) 障害・高齢者・介護

- 9:40- 9:45 座長挨拶： 角田 ますみ (東邦大学)
- 9:45-10:05 O3-1 医療における承認と所属
—障害のあるこどもにどの文化を伝えるべきか
片山 知哉 (横浜市総合リハビリテーションセンター／立命館大学)
- 10:05-10:25 O3-2 障害はないにこしたことはないか、への準備的考察
—「ディアスポラとしての障害」を手がかりに
野崎 泰伸 (立命館大学)
- 10:25-10:45 O3-3 介護施設利用に到るプロセスへの一考察Ⅱ
—認知症の親と息子の関係性の視点から—
横瀬 利枝子 (早稲田大学)
- 10:45-11:05 O3-4 特別養護老人ホームにおける看取り介護をめぐる意思確認プロセス
に関する研究 —質問紙調査を中心として—
鶴若 麻理 (聖路加看護大学)、仙波 由加里 (桜美林大学)
- 11:05-11:10 座長総括

11:20 - 12:50 一般演題 4 (口演) 生殖医療とこども・家族

- 11:20-11:25 座長挨拶： 仙波 由加里 (桜美林大学総合研究機構)
- 11:25-11:45 O4-1 母体胎児外科手術の倫理問題
堀田 義太郎、櫻井 浩子 (立命館大学)
- 11:45-12:05 O4-2 総合周産期センターNICUにおける新生児死亡の臨床像と家族対応
高橋 尚人 (自治医科大学)
- 12:05-12:25 O4-3 卵子提供型体外受精・胚移植 (I V F - E T) に関する所見
—法整備に取り組む立法府への提言
児玉 正幸 (鹿屋体育大学)
- 12:25-12:45 O4-4 タイ北部農村社会における生殖と倫理
—HIV/AIDS 感染者の「生き方」の技法に焦点をあてて—
日野 智豪 (上智大学)
- 12:45-12:50 座長総括

E 会場（小講堂 5202）

9:40 - 11:10 公募シンポジウムL

- SL **バイオエシックス・カフェ：エンハンスメントをめぐる対話**
 オーガナイザー： 前川 健一（東京大学）
- SL-0 議論の仕方を変えてみる
 前川 健一（東京大学）
- SL-1 「もっと～～できたら」を考える
 空閑 厚樹（立教大学）

11:20 - 12:50 公募シンポジウムM

- SM **看護実践に伴う倫理的問題**
 オーガナイザー： 玉井 眞理子（信州大学）、佐伯 恭子（首都大学東京）
- SM-1 看護師にとってのプラシーボと薬実施に伴う問題
 田中 美穂（東邦大学）
- SM-2 看護アドボカシーの実践；
 終末期にある在宅高齢者の権利や利益を脅かす状況への訪問看護師の介入
 岩本 テルヨ（山口県立大学）
- SM-3 <試論>看護倫理——討論の手がかりとして
 佐伯 恭子（首都大学東京）

A会場 (大講堂 5201)

9:00 - 10:30 公募シンポジウムD

- SD 臨床倫理コンサルテーションの現状と課題
オーガナイザー： 浅井 篤 (熊本大学)
- SD-1 がん治療における意思決定 - 医学的に正しいことと患者の希望を奪うこと -
長尾 式子 (神戸大学大学院)
- SD-2 進行の遅い皮膚がんが多臓器転移がある患者への告知の是非についての事例
高橋 隆雄 (熊本大学大学院)
- SD-3 90歳代高齢患者に対する人工栄養開始の是非についての事例
板井 孝孝郎 (宮崎大学)

10:40 - 12:10 大会企画シンポジウムIII

- D3 『認知症ケアの倫理 Ethics of Dementia Care』の創造と発展
オーガナイザー： 箕岡 真子 (箕岡医院)、鈴木 利廣 (明治大学)
- D3-1 日本における「新しい認知症ケアの倫理」が目指すもの
箕岡 真子 (箕岡医院)
- D3-2 アルツハイマー病と共に生きる—今後の認知症ケアに望むこと
大澤 幸一 (若年認知症ぐんま家族会副会長)
- D3-3 自立支援と自律尊重の認知症ケアを育む倫理的気づき
諏訪 さゆり (認知症介護研究・研修東京センター)
- D3-4 パーソンセンタードケアの実践
—認知症の人を、“一人の生活者”として尊重する
福島 富和 (明正会認知症ケア研究所長)
- D3-5 事前指示書作成支援を通して見えてきたもの
～訪問看護の現場から～
小野 幸代 (福岡県看護協会訪問看護ステーション「くるめ」)

13:10 - 14:00 総会 代表理事：木村 利人 (恵泉女学園大学学長)

14:10 - 15:40 大会企画(委)シンポジウムIV

- D4 先端医科学と協働する生命倫理
オーガナイザー：
福士 珠美 (独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター)
河原 直人 (早稲田大学)、児玉 聡 (東京大学)
- D4-1 デュアルユース問題と生命科学者に対する教育
四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)
- D4-2 次世代医療機器の開発状況
小高 泰 (独立行政法人 産業技術総合研究所)
- D4-3 科学研究コミュニティ主導の生命倫理への取り組み
—欧米を中心とした現状と日本における可能性
加藤 和人 (京都大学)

15:50 - 17:20 大会企画(委)シンポジウムV

- D5 薬・遺伝・倫理 —重なり合う未来に
オーガナイザー： 武藤 香織（東京大学）
- D5-1 薬理遺伝学検査 —研究から臨床へ・今、臨床の現場で起こりつつあること—
渡邊 淳（日本医科大学）
- D5-2 遺伝学的検査をめぐる指針と企業の取り組み
堤 正好（株式会社エスアールエル）
- D5-3 ファーマコゲノミクスにおける薬剤師の役割と倫理教育の必要性
川村 和美（スギメディカル株式会社）
- D5-4 薬理遺伝学検査も、街に出る？
武藤 香織（東京大学）

B会場（中講堂 5101）

9:00 - 10:30 公募シンポジウムE

- SE 医療福祉と倫理 —生死をめぐるケアの倫理とバイオエシックス—
オーガナイザー： 山口 三重子（日本赤十字広島看護大学）、斉藤 信也（岡山大学）
- SE-1 医療福祉の倫理とケアの倫理
菊井 和子（関西福祉大学）
- SE-2 延命処置を望まず、終末期を自宅で迎えたい患者と、介護力に不安をもつ家族—事例から考える医療福祉の倫理—
大橋 奈美（訪問看護ステーション ハートフリーやすらぎ）
- SE-3 日常化したケアに見合う医療福祉の倫理とバイオエシックスを問い直す
古川 隆司（追手門学院大学）
- SE-4 終末期の意思決定における家族の役割
横野 恵（早稲田大学）

10:40 - 12:10 公募シンポジウムF

- SF 生命倫理の歴史的現在 —メタバイオエシックスの視点から
オーガナイザー： 田中 智彦（東京医科歯科大学）
- SF-1 死生観の歴史的現在 —バイオエシックスで置き去りにされた視座
小松 美彦（東京海洋大学）
- SF-2 J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯
—フレッチャーの anti-dysthanasia 概念 大谷 いづみ（立命館大学）
- SF-3 発展か、拡散か？ —バイオエシックスのバルカン化論争をめぐって
香川 知晶（山梨大学）

14:10 - 15:40 公募シンポジウムG

- SG 生命倫理教育の再構築
オーガナイザー： 大谷 いづみ（立命館大学）
- SG-1 高校生に脳死を教えるということ
白石 直樹（東京都立墨田川高等学校）
- SG-2 医療倫理ケーススタディの方法論・再考
服部 健司（群馬大学）
- SG-3 病いの物語から導かれるポリティクス
川口 有美子（日本ALS協会）

15:50 - 17:20 公募シンポジウムH

- SH 医療ネグレクトへの法的・倫理的対応
—法とソーシャルワークの協働による生命倫理の新たな展開に向けて
オーガナイザー： 保条 成宏（福岡教育大学）
- SH-1 ドイツにおける医療ネグレクトへの対応
保条 成宏（福岡教育大学）
- SH-2 わが国における医療ネグレクトへの対応
永水 裕子（桃山学院大学法学部）
- SH-3 病院倫理委員会が弁護士等関連機関と連携して、治療拒否をしていた親権者から
同意を得たケース報告
高橋 直紹（愛知県弁護士会）
- SH-4 医療ネグレクトにおけるソーシャルワークの可能性
空閑 浩人（同志社大学）

C会場（中講堂 5102）

9:00 - 10:30 一般演題5（口演） ケアと資源配分

- 9:00- 9:05 座長挨拶： 堂園 俊彦（静岡大学）
- 9:05- 9:25 O5-1 ケアの両義性
石川 洋子（旭川医科大学大学院）
- 9:25- 9:45 O5-2 終末期透析医療と事前指示
大桃 美穂（早稲田大学）
- 9:45-10:05 O5-3 EUにおける臓器移植政策と規制の国際的調整
—レシピエントおよびドナーの保護と情報提供—
福田 八寿絵（大阪大学大学院）
- 10:05-10:25 O5-4 臨床におけるプラシーボ使用の現状
—全国 300 床以上の病院の看護師に対するアンケート調査
小松 明（帝京大学）、田中 美穂（東邦大学）
- 10:25-10:30 座長総括

10:40 - 12:10 公募シンポジウムI

- SI 市民模擬患者（SP）と身体診察教育をめぐる現状と問題点
オーガナイザー： 松原 洋子（立命館大学）
- SI-1 医師を育てる—医学教育における模擬患者の役割—
吉井 文均（東海大学）
- SI-2 医療者は学生に何を伝えようとしているのか
日下 隼人（武蔵野赤十字病院）
- SI-3 医療の受け手が医療者育てに参加する意義
佐伯 晴子（東京SP研究会）

14:10 - 15:40 公募シンポジウムJ

- SJ ニューロポリティクスという問題圏
オーガナイザー： 霜田 求、瀬戸山 晃一（大阪大学）
- SJ-1 ニューロテクノロジーと国家安全保障：アメリカにおける近年の動向
ジョナサン・D・モレノ（米国ペンシルベニア大学）
[指定討論者] 虫明 茂（就実大学）、美馬 達哉（京都大学）

15:50 - 17:20 公募シンポジウムK

- SK 臓器移植法を学際的に検討する
オーガナイザー： 佐藤 労 (藤田保健衛生大学)、森下 直貴 (浜松医科大学)
- SK-1 誰が臓器の提供を決めるのか
栗屋 剛 (岡山大学)
- SK-2 改正臓器移植法の意義－移植医の立場から－
杉谷 篤 (藤田保健衛生大学)
- SK-3 改正移植法における脳死
倉持 武 (松本歯科大学)
- SK-4 未定

D会場 (中講堂 5204)

9:00 - 10:30 一般演題6 (口演) 死の臨床・緩和医療

- 9:00-9:05 座長挨拶： 鶴若 麻理 (聖路加看護大学)
- 9:05-9:25 O6-1 死のモラトリアムについての一考察 —死亡確定時期をめぐって—
大山 眞一 (日本大学大学院)
- 9:25-9:45 O6-2 リビング・ウィルの原点を学ぶ — Luis Kutner の主張と再考
荒川 迪生、平野 高弘、五味 潤一 (日本尊厳死協会)
- 9:45-10:05 O6-3 重篤な脳障害を有する患者における人工呼吸器の中止：
救急医対象の全国調査から 会田 薫子 (東京大学)
- 10:05-10:25 O6-4 緩和医療における生存期間の正確な予測と、患者と家族に与える影響
について —大学病院の事例から—
黒田 佑次郎、岩瀬 哲、佐倉 統 (東京大学)
- 10:25-10:30 座長総括

10:40 - 12:10 一般演題7 (口演) 患者の権利と医療制度

- 10:40-10:45 座長挨拶： 横野 恵 (早稲田大学)
- 10:45-11:05 O7-1 産科医療補償制度の適用可能性と倫理的コンフリクトの考察
—過去 30 年の判例分析から—
上杉 奈々 (横浜市立大学大学院、日本学術振興会特別研究員)
山中 美智子 (大阪府立大学)、平原 史樹 (横浜市立大学)
- 11:05-11:25 O7-2 子どもの「健康・医療への権利」の今日的意義 —経済的な理由による
子どもの医療へのアクセス抑制との関係を中心に—
山本 智子 (早稲田大学大学院、秋草学園短期大学)
- 11:25-11:45 O7-3 無輸血治療選択は医療ネグレクトといえるか
—親権停止事例を巡って—
堀内 雅文 (エホバの証人の医療機関連絡委員会)
- 11:45-12:05 O7-4 難病と資源配分 ドゥオーキン批判から世代間問題へ
徳永 純、今野 卓哉、下畑 享良、西澤 正豊 (新潟大学)
- 12:05-12:10 座長総括

14:10 - 15:40 一般演題8 (口演) ターミナルケアと死生観

- 14:10-14:15 座長挨拶： 藤田 みさお (東京大学)
- 14:15-14:35 O8-1 家族の関わりのない単身者の看取りにおけるソーシャルワーカーの役割 遠藤 紀子 (東洋英和女学院大学大学院)
- 14:35-14:55 O8-2 米国における終末期の医療選択：ワシントン州尊厳死法の成立の前後 蒲生 忍 (杏林大学)、Thomas R. McCormick (Dept. Bioethics & Humanities, Univ. Washington)
- 14:55-15:15 O8-3 古代社会における終末期医療の視点—インド、ギリシア、エジプト、メソポタミアについて 吉次 通泰 (東京大学大学院)
- 15:15-15:35 O8-4 自己無化・異化とケアの地平—聖書に語られる関係概念(隣人愛)を巡り— 小崎 眞 (同志社女子大学)
- 15:35-15:40 座長総括

15:50 - 17:20 一般演題9 (口演) 生命倫理教育

- 15:50-15:55 座長挨拶： 足立 智孝 (財団法人モラロジー研究所)
- 15:55-16:15 O9-1 思いやり心の教育 長岡 成夫 (新潟大学)
- 16:15-16:35 O9-2 映画を通して考える生命倫理教育に関する考察 浅井 篤、福山 美季 (熊本大学)
- 16:35-16:55 O9-3 医学部の医療倫理教育の目的、効果、コアコンピテンシーとは何か 児玉 知子 (国立保健医療科学院) 浅井 篤 (熊本大学)、板井 孝孝郎 (宮崎大学)
- 16:55-17:15 O9-4 生命倫理研究者と医師が共同して行う脳死状態患者の終末期医療に関する生命倫理的医学教育の意義 佐藤 章 (埼玉医科大学)、中島 理暁 (東京医科大学) 皆吉 淳平 (芝浦工業大学、慶應義塾女子高)
- 17:15-17:20 座長総括

E 会場 (小講堂 5202)

9:00 - 10:30 一般演題10 (口演) 医療・医科学技術と公共性

- 9:00- 9:05 座長挨拶： 児玉 聡 (東京大学)
- 9:05- 9:25 O10-1 アメリカにおけるES細胞研究問題 齋藤 真澄 (文京学院大学大学院)
- 9:25- 9:45 O10-2 感染症対策をめぐる倫理的な問題について 大北 全俊 (財団法人 エイズ予防財団、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)
- 9:45-10:05 O10-3 わが国における医療者と一般人の医学的無益性に対する考え方についての研究(医療者を対象とした予備調査) 門岡 康弘、會澤 久仁子、浅井 篤 (熊本大学)
- 10:05-10:25 O10-4 初期臨床研修医に対する生命倫理教育のあり方についての予備調査 荒木 利卓、浅井 篤 (熊本大学)
- 10:25-10:30 座長総括

ラウンジ

14:10 - 15:40 一般演題 1 1 (ポスター発表)

- 14:15-14:25 座長挨拶： 空閑 厚樹 (立教大学)
- 14:15-14:25 P-1 生命が存在するということ —みつめられる自己からの問い—
堀 元樹 (鳴門教育大学大学院)
- 14:25-14:35 P-2 看護学実習で経験する生命倫理の学び
柴田 恵子、川本 起久子 (九州看護福祉大学)
- 14:35-14:45 P-3 大学院メディカルヒューマニティズコースの現状と課題
—ドゥルー大学の事例をもとに—
小松 楠緒子 (明治薬科大学)
- 14:45-14:55 P-4 倫理的問題に対する病院の組織的取組みの現状と課題
—倫理委員会と症例コンサルテーションを中心に—
中尾 久子 (九州大学)、赤林 朗 (東京大学)、
大林 雅之 (東洋英和女学院大学)、家永 登 (専修大学)、
樗木 晶子 (九州大学)
- 14:55-15:05 P-5 苦の意味
浅野 章 (日本大学)
- 15:05-15:15 P-6 臓器移植を巡る死生観—日韓医療関係者の比較—
杉谷 篤 (藤田保健衛生大学)
- 15:15-15:25 P-7 イノベーションと倫理のあり方について
石川 雅人 (三重大学大学院)
- 15:25-15:35 P-8 高等学校における生命倫理に関する論題のディベート
古田 晴彦 (関西学院高等部)
- 15:35-15:40 座長総括